



もんじゃでもお好みでもどちらでも満足

新作もんじゃ会館

東京メトロ線 駅分
千代田 徒歩1
町屋 徒歩1
徒歩1

私の行きつけ

新・赤すようさん

20

【荒川・建具・薄井章通信】荒川支部会館の並びにある創業52年の老舗「浜作もんじゃ会館」。長く荒川区民に愛され、教宣部の忘年会でもご利用です。女将（81歳）さん

はじめ温かなスタッフが迎えてくれる店内は、懐かしの下町情緒あふれる雰囲気。有名な多数来店しているとか。生地と秘伝のタレがとておいしいので、お好み焼

きでも、もんじゃ焼にしてもどちらでも満足できます。作り方のわからない初めての方でも優しい女将さんが絶妙な焼き加減で作ってくれます。女将さんの焼くもんじゃ焼はやはり一味違います。「土手を作らず、平らに広げるのが荒川の焼き方」と語りま

す。是非ともプロの味を皆さんにも堪能して欲しいです。

個人的に私のおすすめは女将さん考案のお好み焼き「ギョウザ玉天」。ひき肉、ニラ、ニンニクなど餃子の具材がた



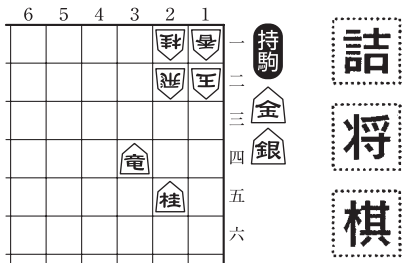
平らに広げるのが荒川流 餃子玉天がオススメ

つぷりで仕事で疲れた体に最高です。居心地が良く、つつい長居してしまいます。店内はテーブル席の他に座敷もあり、全体で50席と忘年会や打上などもできるようになっています。町屋に訪れた方はぜひ一度お試しください。

《メニュー》

浜作もんじゃ 1100円
浜作天 1100円
ギョウザ玉天 1000円
グラタンもんじゃ 950円
生ビール（中） 600円
営業時間16時（土日祝は11時半）〜20時（LO19時）
※アルコール類提供は19時まで。緊急事態宣言を踏まえ、営業時間短縮中。不定期で休みとなる場合があります。

定休日なし（奇数月第3水曜日のみ寄席開催のため休み）
荒川区荒川6-4-11伸和ビル2F
☎03-3819-4855



詰将棋

チヨット一服(103)

新たに始まったNHK大河ドラマは「徳川家康」が主人公だ。沢村は多数の会社の設立や経営に携わり、日本経済の父などと呼ばれている。群馬県では足尾銅山を経営していた古川市兵衛の苦境を知り、資金提供もしていたそう。足尾銅毒事件の被害を沢村は

知らなかったはずがない。また日本は江華島事件以後、朝鮮の植民地化を強化。同時に経済的支配も推し進めた。その中心となったのが沢村の第一銀行だった。朝鮮では第一銀行発行券を通貨として流通をはかり、そこには沢村の肖像画が描かれている。こうした「功績」をNHKはどのように描くのだろうか。

忘れえぬこと

妹は車を追ってきたが
アクセル踏んだ私

設計士 小川 治郎

新型コロナウイルスが蔓延する今、経済的に困窮する方も多くいるでしょう。私と妻が結婚した時、忘れられない出来事がありました。

妻が高校生の頃、彼女の父が肝硬変で他界。それ以来、重度なダウン症の妹を抱え、

長に奥多摩の雲取山に連れて行かれて以来、すっかり山にハマり、体力作りも兼ねて山登りを始める。

しかし、鬱病を発症して休職中に膝を壊してしま。う。そんな時、妻の母に焼いた久保田哲は、ある日社

でもらったシフォンケーキに感動し、これを皆に食べてもらおうと決意。今では、青梅市街をリアカで回遊する神出鬼没の「幻のシフォンケーキ屋」として、皆から愛される存在となった。

障害者施設の職員に妹を預け、乗ってきた車を発進させながら車窓の後ろを振り返った時でした。今まで何も意思を持たなかったダウン症の妹が、施設職員の手から離れて私たちの乗った車を夢中になつて追いかけてきたのです。

普段走ることのなかった妹。走り去る我々の車を見つめて尋常でない目で追いかけてくる妹の姿を見付けて、気丈な妻の母が車の中で思わず声を上げて泣きました。無情にも車を停めることなくアクセルを踏み続けました。

妻の母や妹はすでに亡くなりましたが、この時の情景が今でも私の脳裏に残っています。経済的に苦しかった時など自分を奮い立たせてくれる原動力になってくれている様に思います。そして今年、私たちは40年目のルビ婚を迎えます。

(北)

たまたま

神出鬼没

「たまたま」は、ある日社

でもらったシフォンケーキに感動し、これを皆に食べてもらおうと決意。今では、青梅市街をリアカで回遊する神出鬼没の「幻のシフォンケーキ屋」として、皆から愛される存在となった。

ほん 本

クラブアート

著=プロイスラー 訳=中村浩三

少年は仲間を守るため立ち上がる

【本部・山内高広記】読んだきっかけは、「宮崎駿 おすすめ」の児童文学として紹介されていた中の1冊で、目に留まったこと。ドイツのクラブアート伝説をベースにした物語で、おそらく、作者の体験をそこに織り込んで書かれている作品です。

舞台は17、18世紀ごろの魔法が存在する世界。仲間の少年たちと物乞いをして暮らしていた主人公の少年クラブアートが、11羽の力強い魔法の導かれ、親方と11人の粉ひき職人のいる水車場にたどり着く。

そこで職人として働くことになるが、親方は魔法使い、職人はその弟子だった。親方の支配は絶対で、逆らうこともできず、弟子は親方の利益のために働き、教えられた魔法で死が付きまといまが、児童文学として書かれている事もあり読みやすく、一気に読める本です。

(偕成社・1760円税込)